

RISA PARTNERS INC.



第10期中間期 営業報告  
2007.1.1-6.30

YEAR BOOK

# WHAT'S UP?

今のリサをもっと知っていただくために

## 突然ですが、井無田社長に6つの質問です。

### Q1. 会社設立のきっかけは何ですか？

日本長期信用銀行で20年、内外の融資業務、リストラ業務を手がけてきました。40歳の不惑の年をきっかけに、これまで培ったノウハウをなんとか自分の手で活かしたくて退職・独立しました。高度成長時代の価値観ががらがらと崩れ始めたときでしたからゼロからの出発もいかなと思っ

### Q2. 事業に関して買っているポリシーはありますか？

「利は義の和なり」。江戸時代の儒学者の言葉ですが「利」は「利益」、「義」は「正義、信義」。「義」を尊重した企業活動を続けていけば結果として「利」がついてくる、と信じています。

### Q3. 当中間期の業績についての満足度は？

今年は東証第一部上場会社として2期目の年です。これまでは考えられなかったような大きな案件を手がけられるようになるなど、企業のステージが大きく変わりました。当中間期は前年同期に比べて大幅増ですが計画を少し上回る程度であって決して満足はしていません。

### Q4. リサ・パートナーズをどのような組織にしたいと考えていますか？

一人ひとりがプロフェッショナルであり、かつ想像を上回る斬新なビジネスを常に創出できる生き生きとした集団。当然のことながらコンプライアンス（法令や秩序の遵守）やCSR（企業の社会的責任）活動にも積極的に取り組めるようにしたいですね。

### Q5. 今後、力を入れていきたい分野はありますか？

各事業をまんべんなく拡大させるとともに、時代の最先端に合ったビジネスやポートフォリオを積極的につくっていきたくと思っています。また、お客様に最適な「ソリューション（問題解決）」を提供するために、高度な助言機能やスペシャルファイナンスの提供機能など、金融・不動産に直結したサービスラインの充実を図ります。

### Q6. リサ・パートナーズにとって株主とは、どんな存在ですか？

当社（われわれ）の高い志に共感していただいている強力がつ不可欠な応援団です。企業価値の向上を目指す私たちに対して厳しく、また時には優しく見守っていただきたいと願っています。





## Q: 当中間期を振り返ってどうですか？



### 金融と不動産を軸とした投資銀行としての事業が拡大しました。

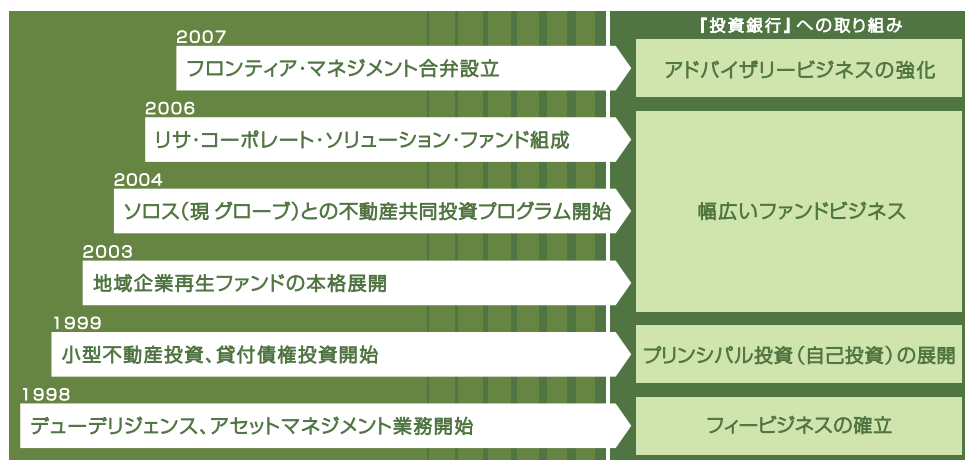
当中間期は、金融と不動産を軸にした投資銀行として、大きな存在感を示すことができましたと思います。2007年1月には、産業再生機構で活躍された大西正一郎、松岡真宏両氏との合併で、ターンアラウンドとM&Aにフォーカスしたコンサルティング会社「フロンティア・マネジメント株式会社」を設立し、各方面から大きな注目を集めました。さらに同年3月、「リサ・コーポレート・ソリューション・ファンド」への投資枠を増額し、より多くのビジネスチャンスを捕捉する体制を整えることができました。

### 将来に向けた経営力を強化しました。

順調に事業が拡大する一方で、経営管理・投資管理・資金調達機能の強化など今後予想される様々な経営課題にいち早く対処し、内部統制に向けた仕組みづくりや拡大する投資事業の管理強化を行いました。2007年6月には、資金調達力強化を目的として財務部を新設いたしました。また、将来のリサ・パートナーズを担う人材の育成に向けて、新卒第一期生の採用も開始いたしました。今後も、社会に求められ続ける企業であるために、内部統制やコンプライアンスなど経営力の強化に努めてまいります。

## リサ・パートナーズのキセキ。

当社は、金融から不動産に至るまで最先端のマーケットにおいて、様々なビジネスを手がけ、真の「ソリューション」を提供しているプロフェッショナル集団として、着実に「投資銀行」へと成長してきました。現在では、「プリンシパル投資事業」、「ファンド事業」、「インベストメントバンキング事業」の3つの事業が融合するビジネスを展開しています。今後はその事業をさらに発展させ、「ナンバーワン・オンリーワンの投資銀行」としての道を着実に進んでまいります。

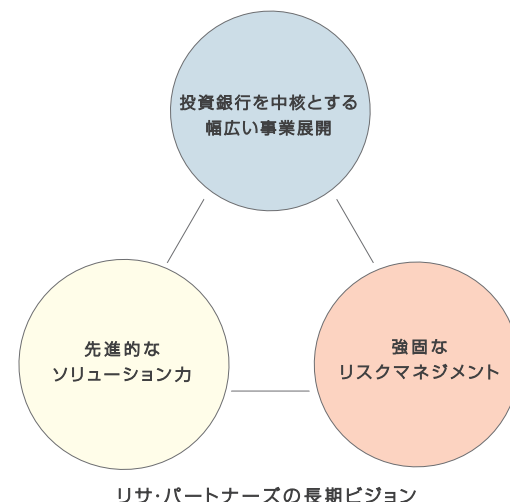


## Q:リサ・パートナーズの今後の目標は?

### 中期経営計画を策定いたしました。

#### 新たな成長ステージへ。

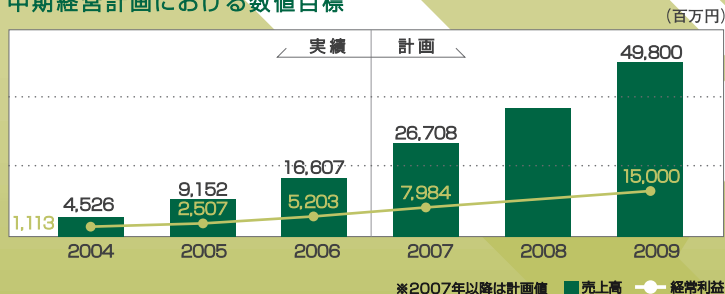
当社は、金融・不動産を軸とする投資銀行を中核に、先進的なソリューション力、強固なリスクマネジメント力を強化し、新たな事業領域の開拓にも積極的にチャレンジしてまいります。



### 2009年12月期、経常利益は150億円規模へ。

既存事業のさらなる強化とビジネス展開の加速を進め、2009年12月期には、2006年12月期の約3倍に当たる経常利益150億円の達成を目指します。また、事業面の強化だけでなく、組織・人員体制の充実や財務基盤の強化を図り、中期経営計画の達成をより確かなものとしていきます。

#### 中期経営計画における数値目標



## 当中間期の主なニュース

ソリューション・ファンド投資を開始しました。

企業再生およびM&Aにさらに力を入れていきます。

### 投資銀行としての機能がさらに充実。

#### ソリューション・ファンドが本格稼働しました。

2006年秋に組成した「リサ・コーポレート・ソリューション・ファンド」のファンド総額を拡大し、本格稼働する体制が整いました。現在、様々な企業ニーズに対応すべく、戦略的な投資実行を進めております。また、フロンティア・マネジメント株式会社のアドバイザー機能とのタイアップにより、他には見られない一歩進んだソリューションを提供しております。

#### フロンティア・マネジメント株式会社の設立。

2007年1月、ターンアラウンドおよびM&Aにフォーカスしたコンサルティング会社「フロンティア・マネジメント株式会社」を合併で設立いたしました。同社は、企業経営における各種分野の専門家が一体となり、最良の経営判断を導き実現することをサポートしております。また、当社のネットワークや機能を全面的に活用することで、幅広い企業ニーズに対応しております。

### 沖縄ビジネスの展開。

沖縄での事業に注力してきました。

#### 株式会社國場組の財務再構築が完了。

これまで当社は、國場組の抜本的な財務再構築等を支援してまいりました。今般、國場組の財務健全化が完了するとともに、同社が「攻めの経営」に転換することを踏まえ、事業協力に関する覚書を交わしました。今後、國場組グループとともに、沖縄県の地域経済活性化に貢献すべく共同プロジェクトを強力に展開してまいります。

#### リゾート開発プロジェクトが始動。

國場組グループとの戦略的なアライアンスや、地元金融機関との強力なネットワークを活かし、国内で特にポテンシャルの高い沖縄におけるリゾート開発プロジェクトに着手いたしました。本島および離島において、魅力的なリゾートを開発し、沖縄の観光振興に積極的に貢献してまいります。その一環として、那覇市に商業施設「R3UKishima」が完成し、核テナントとして宮里藍応援カフェ「aicafe54」がオープンいたしました。

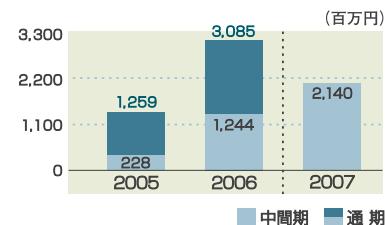


# セグメント別営業概況について

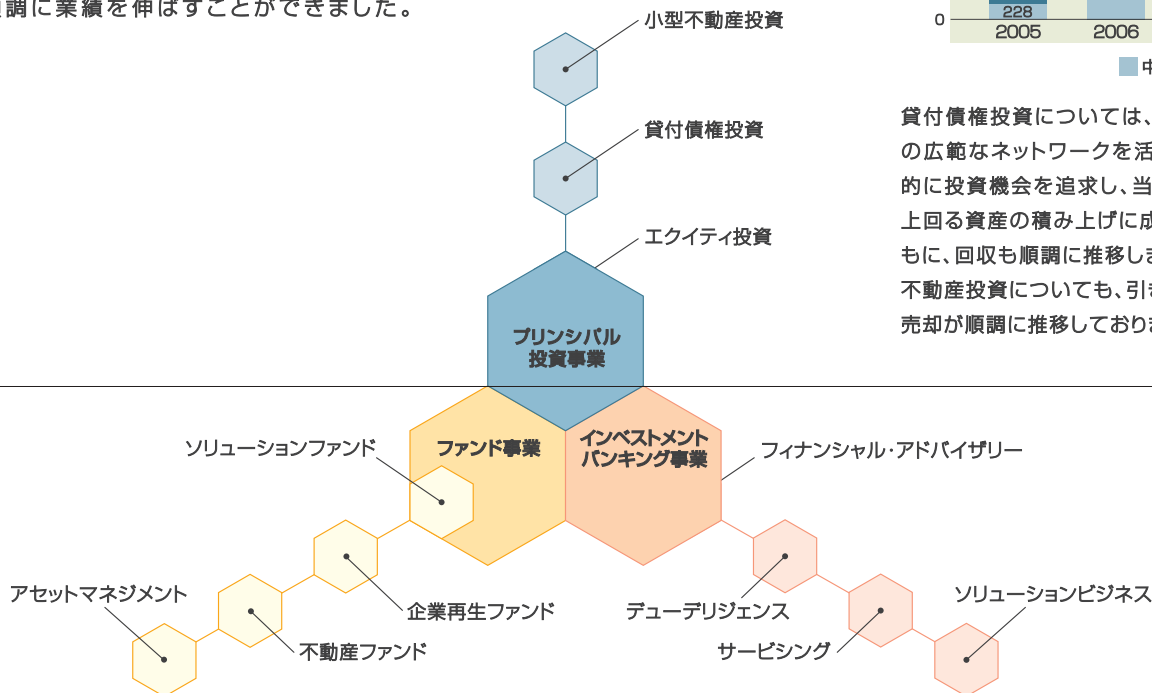
## 資産規模・収益の拡大

2007年12月期中間期は、不動産・貸付債権等に対する投資案件を着実かつ迅速に獲得・処理することにより、全体として順調に業績を伸ばすことができました。

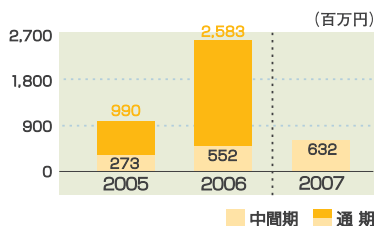
### ■プリンシパル投資事業営業利益



貸付債権投資については、金融機関との広範なネットワークを活用して積極的に投資機会を追求し、当初の想定を上回る資産の積み上げに成功するとともに、回収も順調に推移しました。小型不動産投資についても、引き続き投資・売却が順調に推移しております。

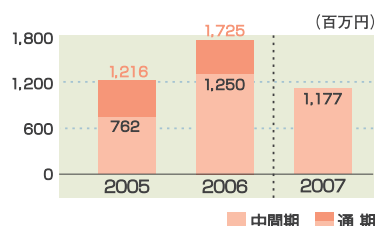


### ■ファンド事業営業利益



不動産共同投資事業については、順調に投資残高を積み上げることに成功する一方、投資物件の出口処理も好調に進んでおります。ソリューションファンドについても、投資コミット総額を218.5億円に拡大し、ファンド事業の一翼を担う体制を整えることができました。

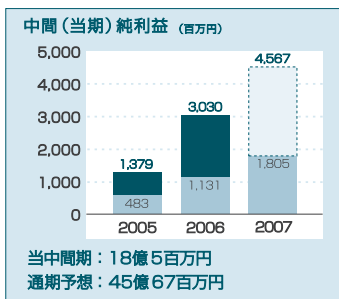
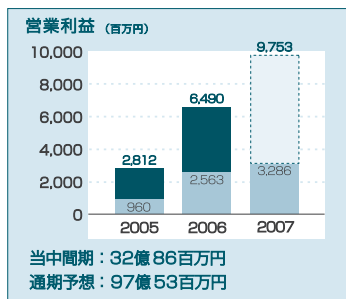
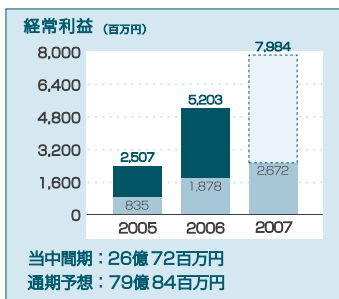
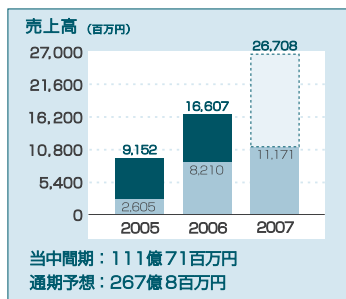
### ■インベストメントバンキング事業営業利益



インベストメントバンキング事業の各事業が順調に推移するとともに、フロンティア・マネジメント株式会社の本格稼働もありましたが、前中間期において大型案件の出口処理があったことから若干の減益となりました。

## ■ 中間決算内容について。

当中間期においては、売上高11,171百万円（前年同期比36.1%増）、  
経常利益2,672百万円（同42.3%増）、中間純利益1,805百万円  
（同59.5%増）と大幅な増収増益となりました。



■ 中間期 ■ 通期

注) 2007通期は予想

詳細な財務情報をご希望の方は、当社ホームページ「IR情報」をご覧ください。  
<http://www.risa-p.com/category/investor-relations/>

## ■ 中間連結財務諸表のポイント

	当中間期 (百万円)	前中間期 (百万円)	増減率 (%)
売上高	11,171	8,210	+36.1%
営業利益	3,286	2,563	+28.2%
経常利益	2,672	1,878	+42.3%
中間純利益	1,805	1,131	+59.5%

	当中間期 (百万円)	前期末 (百万円)	増減額 (百万円)
流動資産	65,710	62,539	+3,171
固定資産	29,118	18,590	+10,528
流動負債・固定負債	70,168	61,762	+8,406
純資産	24,660	19,367	+5,293
総資産	94,829	81,130	+13,699

### 売上高

プリンシパル投資事業における貸付債権の投資回収が順調に推移したことや、不動産売却が順調であったことに加え、旅館・ホテル運営会社の連結の影響もあり、前中間期に比べ2,961百万円増の11,171百万円となりました。

### 経常利益

事業の拡大に伴う売上高および売上総利益の増加により、前中間期に比べ793百万円増の2,672百万円となりました。また、販売費及び一般管理費について期初計画より抑制することができ、効率的な経営を行うことができました。

### 中間純利益

経常利益の増加および投資案件の出口処理による特別利益の計上等により、前中間期に比べ673百万円増の1,805百万円となりました。



### 資産

債権投資および小型不動産投資は、投資および回収・売却が好調に循環しているため流動資産の大幅な増加は見られませんでした。ファンド事業における投資案件の拡大により、結果として固定資産が大幅に増加し、総資産は前期末に比べ13,699百万円増の94,829百万円となりました。

### 負債

投資の拡大に伴う旺盛な資金需要に対応するため、転換社債型新株予約権付社債の発行および借入金の調達を進めたことから、負債については前期末に比べ8,406百万円増加し70,168百万円となりました。

### 純資産

順調な収益の獲得により剰余金が積み上がったことや、転換社債型新株予約権付社債の一部転換により、資本金・資本剰余金が合わせて1,919百万円増加しました。これにより純資産については、前期末に比べ5,293百万円増加し24,660百万円となりました。



## 会社概要 (2007年6月30日現在)

商号	株式会社リサ・パートナーズ
所在地	東京都港区赤坂1-11-44 赤坂インターシティ5階 TEL:03-5573-8011 FAX:03-5573-8012
設立	1998年7月2日
資本金	7,812,642,730円
役員数	184名 (2007年7月1日現在、連結)
主要関連会社	(株)リファス、(株)単人インベストメンツ、リサ企業再生債権回収(株)、 (株)リサ・パートナーズ沖縄、フロンティア・マネジメント(株)、 (株)グッド・リゾート

## 役員 (2007年6月30日現在)

代表取締役社長	井無田 敦
専務取締役	井無田 美鈴
専務取締役	田中 敏明
取締役	岡本 浩和 (経営戦略部長)
監査役	近藤 善三郎 (常勤)
監査役	笠原 秀夫
監査役	藤井 保紀 (静岡産業大学特任教授、中外製薬(株) 監査役)
監査役	内山 隆太郎 (東京共同会計事務所パートナー 公認会計士)

## 株式の状況 (2007年6月30日現在)

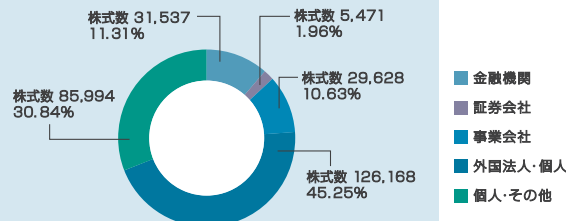
発行可能株式総数	721,600株
発行済株式数	278,798株
株主数	7,376名

## 大株主の状況 (2007年6月30日現在)

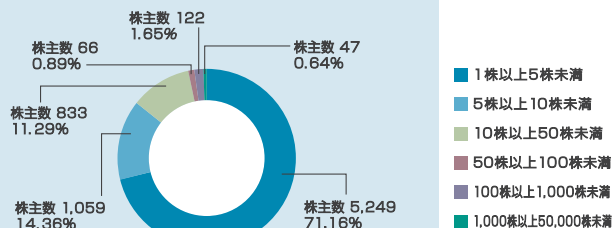
株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
井無田 敦	27,068	9.71
株式会社ジエイウェイ	18,400	6.60
シェーモルカチースオープンハイマーズジャスチックアカウント	18,000	6.46
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	12,556	4.50
井無田 美鈴	9,476	3.40
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	7,701	2.76
シェーモルカチースクレディブルファンズジャスチックレディングアカウント	7,677	2.75
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	7,383	2.65
東京共同会計事務所	6,490	2.33
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	5,970	2.14
上位10名 計	120,721	43.30

## 株式分布状況 (2007年6月30日現在)

### 所有者別構成比



### 所有株数別構成比



# 株式会社 リサ・パートナーズ

## 株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
上場証券取引所	東証第一部
公 告 方 法	電子公告による